

# 福祉にいがた

Fukushi Niigata

# CONTENTS

卷頭特集

## 年頭のごあいさつ(2・3面)

・新潟県社会福祉協議会会長 　・新潟県共同募金会会長 　・新潟県知事

- 福祉の現場—認知症の人と家族の会新潟県支部副代表・等々力務さん
  - ぴっくあっぷ市町村社協—阿賀町社協「ジョセササイズ」

1月号  
2026  
第881号

絵 「雪景色の町」 作・新井 黒沙(加茂市)  
作品よもやま一自宅の窓から眺めた雪景色の加茂の町



# 年頭のごあいさつ



社会福祉法人  
新潟県社会福祉協議会  
会長  
**高井盛雄**

令和8年の年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。皆様からは、日頃より社会福祉の推進に温かいご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

様々な災害が頻発化・激甚化する中、昨年も各地で豪雨による水害や地震、大規模火災等が発生しました。被害を受けた皆様には心よりお見舞い申し上げます。

こうした中、昨年3月に県と当協議会との間で締結された協定により、災害時には県との連携のもと、災害ボランティア支援センターを立ち上げ、地域での受け入れを支援する仕組みが構築されました。さらに先般の災害救助法改正により、「福祉サービスの提供」が救助の項目として加わったこともあり、体制整備も含め、平時より災害に対する備えをしっかりと行つてまいりたいと考えています。

私たちの取組への一層のご理解、ご協力を願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈ります。

えております。

一方、社会課題に目を向けてみると、人口減少下における少子高齢化の急速な進行や核家族化・単身化、地域の支え合い機能の低下などによる社会的孤立や経済的困窮など様々な福祉課題・生活課題が顕在化しており、地域福祉活動の拡充や強化は引き続き大きな課題となっております。

当協議会といたしましても、「共

に生き共につくる福祉社会を目指して」という基本理念のもと、皆様とともに地域の多様なニーズを受け止め、制度や分野の垣根を越えた地域福祉活動の進展に取り組んでまいります。

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

昭和22年に国民たすけあい運動として始まつた共同募金運動も79回目を迎え、昨年度までに寄せられた寄付金の累計は275億円余りとなりました。これもひとえに皆様方からの温かいご支援とご協力の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

令和7年度は募金の目標額を4億6477万円と定め、その達成に向けて懸命に取り組んでおり、皆様方からお寄せいただいた寄付金は県内の様々な民間福祉活動やボランティア活動のほか、災害時の被災地支援などにも活用させていただきます。

特に、昨今、食品などの価格の高騰により、経済的に困窮する人や孤立する人の増加がこれまでにも増して大きな課題となっていますが、

ひとり親家庭などの困窮世帯への食料支援、子どもや高齢者の居場所づくりの支援などにも重点的に取り組んでまいります。

また1月からは、子育て家庭支援、認知症支援、引きこもり相談、自殺の防止など、特定のテーマを掲げる団体が募金活動に参加する「にいがた・新テーマ型募金」と、高齢者世帯などの除雪を支援する「あつたか雪募金」も始まりました。

「じぶんの町を良くするしくみ」としての赤い羽根共同募金が更に身近なものとなり、支援の輪が広がるよう、インターネットの活用など、新たな工夫も取り入れながら取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



社会福祉法人  
新潟県共同募金会  
会長  
**佐藤明**

私どもの取組への一層のご理解、ご協力を願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈ります。

私たちの取組への一層のご理解、ご協力を願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈ります。



新潟県知事  
花 角 英 世

令和8年の年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

本県では、急速に進む少子化等を背景とした人口減少問題や激甚化・頻発化する自然災害など様々な課題を抱えており、オール新潟で取り組んでいかなければならぬと考えています。将来的な人口定常化を目指し、子育てに優しい社会の実現、持続可能で暮らしやすい地域社会の構築、高い付加価値を創出する産業構造への転換などの重要課題にしっかりと対応し、若者にとって魅力ある働く場所、新しいことに挑戦できる場所、こどもを生み育てやすい場所、そして、多くの方が魅力を感じて訪れる場所として新潟県が「選ばれる」よう、公民一体となつた取組を進めてまいります。

また、近年の地域福祉を取り巻く状況を見ますと、世帯構造の変化、地域のつながりの希薄化による社会的孤立やヤングケアラーへの支援など福祉分野における課題が多様化・複合化しております。

こうした様々な福祉課題や地域のニーズに対応するため、属性や世代を問わず包括的に課題を受け止める相談支援や、本人や世帯の状況にあわせ地域社会とのつながりを回復するための支援など、地域における包括的な支援体制を構築し、高齢者、障害者、こどもなど全ての人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高め合うことができる地域共生社会の実現が求められています。

(一財)新潟県民生委員児童委員協議会 会長 大倉眞弓	(公社)新潟県社会福祉士会 会長 渡辺陽一
(一社)新潟県老人クラブ連合会 会長 富沢 哲	(公社)新潟県介護福祉士会 会長 大井秀行
(一社)新潟県ひとり親家庭福祉連合会 会長 茂又悦子	新潟県内社協職員連絡会 会長 斎藤 徹
(一社)新潟県手をつなぐ育成会 理事長 皆川栄子	(一社)新潟県介護支援専門員協議会 会長 寺口能弘
新潟県保育連盟 会長 山田淳子	新潟県社会就労センター連絡協議会 会長 池内 明
新潟県立保育園・認定こども園連盟 会長 坂上隆行	(新潟ユービンプラザ入居福祉団体) 会長 池内 明
新潟県保育士会 会長 伊東一男	
新潟県社会福祉法人経営者協議会 会長 平澤正人	

# 謹賀新年



# 福祉の現場

—福祉の現場で働く人たちに  
思いを聞きました—



「家族の会」連絡先

新潟県支部代表・金子裕美子さん（糸魚川市）  
☎ 025 (550) 6640  
yumiko21@abeam.ocn.ne.jp

ことです。

「テキストには、認知症の人を怒ってはいけない、とか、なくしたものを見つかった時は本人の手柄にするように、などと書いてあります。でも実の親子だと感情がストレートにぶつかり合い、実際にはなかなかうまくいかないものです」と等々力さん。そこで提唱しているのが、「いい加減」ことです。

等々力務さん  
新潟市北区Ⅱは、市内でデイサービス管理者として働きながら、認知症の人や介護家族が前向きに暮らせるよう支援をしたり、講演や執筆などを通して発信したり、幅広く活動しています。

取り組んだきっかけは若いころ、大好きだった祖父と祖母が認知症になつたことでした。「仕事をなんでもこなしていた祖父と、おしゃれだった祖母が変わつていくのがショックでした」認知症について学ぼうと、大学では社会福祉や介

護を専攻し、卒業して間もなく、家族の会に足を運ぶようになりました。今から26～27年前、介護保険制度が始まる前のことです。

「こんな若い世代が参加するのは珍しかった。世話人のおばさんたちが優しくしてくれて、とても居心地がよかつたので、現在まで続いているんです」



使ったことで生まれた時間を利用して、サークル活動をしたり友人と食事をしたり、自分にいっぱいご褒美をあげてください」とさらに強調するのが、介護の悩みを人に話して共感してもらうことの大切さです。「いろいろ見てくると、無理心中や虐待などが起きる時は、孤立している人が多い。とにかく孤立しないことが大事」だといいます。それは等々力さんが家族の会の活動に力を注ぐ大きな目的の一つでもあります。

ではなく「良い加減」の介護です。多少のことには目をつぶり、かつちりやろうとしきれないこと。「どこかで手を抜くことができるかを考えることが大事」だといいます。

もう一つは、介護保険のサービスを適切に使うこと。介護保険のサービスは、介護者を助ける応援団です。介護者にも人生がある。サービスを使うことで生まられた時間を助ける人と助けられる人が今求められています。

「この関係ではなく、認知症の人も一緒に参加して、上下関係のない環境で暮らせる社会にしたいと等々力さんは考えています。

介護保険制度はそのための命綱。「自分も将来この制度を使うことになるかもしれない。極めて大事な問題なんです」。命綱を守るために関心と理解を深めてもらおうと、本を出版したり、各地で講演したり、新聞に定期的に投書したり、精力的な活動を続けています。

「虐待は確かに悪いこと

です。でも状況を考えれば、苦しみの末に手を上げてしまふり、かつちりやろうとする人を責められないのです。家族の集いに初めて参

加して暗い表情だった人が、回を重ねて元気になつていくのを見るのが何よりも嬉しいですね」と熱い口調で語ります。

# 離れる時間が欲しい 免許返納に納得せず

新潟県認知症コールセンターで受けた令和7年度9月末までの上半期の相談は、223人から寄せられました。1件の相談には多岐にわたる内容が含まれることから、延べ573件の相談内容に対応しました。主な相談内容をまとめましたのでご覧ください。〔下表〕。

いちばん多い相談は、介護・介助に関する内容でした。認知症の家族介護を続ける中でストレスがたまり、離れる時間が欲しいとの声が寄せられます。在宅での暮らしを希望する場合、福祉サービスを活用しながら介護する人もホッと一息つける時間を持つていただきたいと思います。

介護の悩みは一人で抱えず、他の家族や親戚、友人など誰でも、どこでもよいので相談してみてください。

## 県認知症コールセンター 令和7年度上半期相談状況

知人、福祉サービス事業者、そして当センターなど、誰でも、どこでもよいので相談してみてください。

また、認知症の人を「認知症だからできない」といってあげないといけない」という思い込みはせず、本人の思いや希望に心を寄せてください。できていることに目を向け、それが継続できるようにサポートするのも一つの方法だと思います。

当センターは、福祉の有資格者や介護の経験者が相談員を担い、認知症の方やその家族が抱えるさまざまなお悩みごとを電話や面談でお受けしていくます。お気軽にご相談ください。

### 《主な相談内容》

【相談分類別】

■介護・介助 (191件 : 33.3%)
・介護に疲弊し、毎日の生活に限界を感じる
・姿が見えなくなると大声で叫ぶため目が離せない
・物の整理ができず、通帳を盗んだと家族を疑う
・入浴を3ヶ月拒否している
・トイレ以外で排尿、排便をするため困っている
・嫉妬妄想が激しく他者との交流を嫌がる
・認知症の家族と離れる時間が欲しい
・薬の服用を忘れ管理ができない
・親が1日に何回も電話をかけてくる
・本人と相談し衣類を処分したが、忘れてしまい怒っている
■保健・医療 (158件 : 27.6%)
・もの忘れが出てきたが受診した方がよいか
・認知症を診てくれる病院を教えて欲しい
・受診を勧めるが拒んでいる
・最近、もの忘れが多くなり、言葉が出てこなくなった
・認知症になるとどのように進行するのか
・主治医から検査を勧められた
・メモに記録したことも忘れてしまう
・認知症の薬を服用しているが調子が悪いため止めたい
・新薬の治療を受けさせた方がよいか迷っている

■家族・家庭 (118件 : 20.6%)
・親の介護にきょうだいが無関心
・親が認知症と診断されたが受け入れられない
・子どもから近くに引っ越してくることを提案された
・一人で両親を介護している
・家族から認知症ではないかと言われてショックを受けている
・頼れる家族がいなくて寂しい
■福祉サービス (64件 : 11.2%)
・認知症状が進行しているため施設入所を検討している
・施設の入居者と会話を楽しみたいが難聴のため難しい
・介護認定を受けることを拒否している
・人が大勢いるところは嫌だとデイサービス利用を拒否する
・施設長から他施設への転居を勧められた
■経済・生活 (32件 : 5.6%)
・もの忘れがあり仕事を退職した
・診断されたのを機に免許を返納させたが車の鍵を探し回る
・医師より運転免許返納について話があったが納得していない
・親の施設入所を希望しているが金銭的な余裕がない
■権利擁護 (10件 : 1.7%)
・診断され銀行口座が凍結しないか心配
・認知症と診断された親の相続について

認知症のこと、ひとりで悩んでいませんか？～お気軽にご相談ください～

新潟県認知症  
コールセンター

相談電話

025-281-2783  
にんちゅう な や み

【所在地】〒950-8575 新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階(来所相談も可)  
【相談時間】月曜日～金曜日(祝日・年末年始を除く) 9:00～17:00



# 赤い羽根情報

## 善意の319万円、県内56団体に

### NHK歳末たすけあい助成決定交付式

NHK歳末たすけあい募金等の寄付を原資として、県共同募金会がこども食堂へ活動費や大型備品の購入費を贈る「NHK歳末たすけあい助成決定交付式」が昨年12月10日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで行われました。



式では県共募の佐藤明会長とNHK新潟放送局の大竹岳史局長が「経済的困窮や孤立でこどもの貧困が深刻化している中、

### はがきや切手を回収 こどもの支援に助成

#### コーパデリにいがた

生活協同組合「コーパデリにいがた」（新潟市西区）は、昨年1月から5月にかけて実施した「はがき・切手回収キャンペーング」で集めた募金348万1949円を新潟県共同募金会へ寄付しました。

このキャンペーンは未使用のはがきや切手、商品券などを組合員から募集。それらを換金して、県共募に寄付する仕組みで、昨年で4年目となりました。寄付金は貧困などに苦しむこどもたちへの支援活動を行う団体に助成されます。

新潟市中央区の新潟ユニゾン



有効に活用してほしい」「こども食堂はこどもが安心し、地域とのつながりを育む場。その発展に役立ててほしい」とあいさつしました。また、贈呈を受けたO H A N A未来食堂（新潟市）の板倉未来理事長、木戸のお茶の間こども食堂（新潟市）の長谷川徳昭

も食堂はこどもが安心し、地域とのつながりを育む場。その発展に役立ててほしい」とあいさつしました。また、贈呈を受けたO H A N A未来食堂（新潟市）の板倉未来理事長、木戸のお茶の間こども食堂（新潟市）の長谷川徳昭

も食堂はこどもが安心し、地域とのつながりを育む場。その発展に役立ててほしい」とあいさつしました。また、贈呈を受けたO H A N A未来食堂（新潟市）の板倉未来理事長、木戸のお茶の間こども食堂（新潟市）の長谷川徳昭

贈呈式で記念撮影する「コーパデリにいがた」の登坂康史理事長（左から4人目）と、県共募の佐藤明会長（同5人目）

事務局長ならびにおおがたみんなのオアシス（新潟市）の添田隆副会長は、「こどもたちのために大切に活用したい」「冷蔵庫を購入し、食品寄付を活かして利用者を増やしたい」「運営が厳しい中、助成に感謝している」と、それぞれ活用に向けた抱負を述べました。



# 赤い羽根 情報

団体名	本部所在地	活動テーマ	目標額
			応援したい福祉団体に募金する「にいがた・新テーマ型募金」
NPO法人OHANA	新潟市	居場所づくり、こども食堂運営、相談支援事業など	3,000,000
社会福祉法人 新潟いのちの電話	新潟市	中学生を対象としたいのちの電話カードの配布など	500,000
NPO法人 フードバンクにいがた	新潟市	フードバンク事業(フードドライブ・寄贈、提供食料品の管理・運搬)	1,600,000
一般財団法人 新潟市母子福祉連合会	新潟市	ひとり親家庭への学習支援＆こども食堂	2,400,000
特定非営利活動法人 教員サポートSmileういんず	新潟市	支援を必要とするこども達などのクラスサポート	900,000
NPO法人 いきいき健康家族オアシス	新潟市	こども食堂やフリースペースの運営など居場所作り事業	300,000
NPO法人長岡医療と福祉の里 ボランティア連合会	長岡市	有償ボランティアの研修・人材確保	300,000
特定非営利活動法人ふみりり	上越市	子育て家庭への訪問支援事業	400,000
上越地区手をつなぐ育成会	上越市	障害児者の保護者及び関係者への将来に向けての情報提供支援及び相談支援事業	100,000
特定非営利活動法人 かみえちご山里ファン俱楽部	上越市	こどもの居場所づくり、放課後教室事業など	530,000
特定非営利活動法人 新潟県フードバンク推進協議会	三条市	ひとり親世帯への食料援助事業等	2,000,000
フードバンクしばた	新発田市	こどもの貧困世帯・産前産後ケア、病児保育など包括的支援事業	3,000,000
NPOかも小町	加茂市	認知症カフェの運営、フレイル予防の支援事業等	1,000,000
フォルトネット	十日町市	引きこもり当事者の相談事業など	100,000
NPO法人みんなの実家 グリーンホームふたば	見附市	障害者支援施設の整備・運営	500,000
フードバンクみつけ	見附市	ひとり親家庭等への食支援	500,000
フードバンクさんぽく	村上市	困窮世帯包括的ケアの場としての居場所づくりと体験活動支援	400,000
胎内市フードバンク協議会	胎内市	ひとり親世帯への食料支援、福祉的アウトリーチ活動など	300,000
特定非営利活動法人 ミンナのチカラ	胎内市	引きこもり当事者とその家族の居場所づくりなど	380,000
合計19団体			18,210,000

にいがた・新テーマ型募金一覧表（令和7年度）

3月31日まで

応援したい福祉団体に募金する「にいがた・新テーマ型募金」が今年も3月31日まで行われて

います。

この募金は福祉に関わる団体が力を入れるテーマと目標額を示して寄付を募集します。その

テーマに賛同した個人や企業が県共同募金会を通じて寄付する仕組みです。

今回は19団体が参加、計1,81万円の目標を掲げています。

II表参照!!

皆様のご協力をよろしくお願いては新潟県共同募金会ホームページでも紹介しています。

いします。

団体の活動内容の詳細等につ

いては新潟県共同募金会ホームページでも紹介しています。

## 雪掘りに力添え あつたか雪募金

7市町村共募

豪雪地域に暮らすお年寄りや障がい者が、住み慣れた地域で安心・安全に冬を過ごしていたがるよう、下記の市町村共同募金委員会では、今年も3月31

日まで「あつたか雪募金」を実施しています。

この募金は、自力で除雪・排雪するのが困難な人たちの世帯を支援すると共に、除雪ボランティアの活動や育成を推進することを目指しています。

皆さまのご協力をよろしくお

## 熊本県共同募金会に101万円 災害等準備金拠出・公告

熊本県共同募金会に対し災害等準備金の拠出を行いましたので、社会福祉法第120条第2項の規定に基づき、公告いたします。



令和7年8月豪雨水害に対し新潟県共同募金会は、災害準備金から熊本県共同募金会へ災害ボランティアセンターの運営費の一部として101万円を拠出しました。

### 実施市町村 共同募金委員会

- ・長岡市共同募金委員会
- ・小千谷市共同募金委員会
- ・見附市共同募金委員会
- ・南魚沼市共同募金委員会
- ・湯沢町共同募金委員会
- ・津南町共同募金委員会
- ・関川村共同募金委員会

「あつたか雪募金」のポスター



あつたか雪募金にご支援をお願いします

募金期間 2026.1.16 から 3.31まで 社会福祉法人 新潟県共同募金会

〒950-0994 新潟県新潟市中央区上町2丁目2番2号 (新潟ユニソンブリザ3F) Tel.025-281-5532

令和7年度

ホームページでも内容を紹介しています  
<https://www.fukushihoken.co.jp>

# 全社協 保育所・認定こども園の損害補償

スケールメリットを活かした充実した補償と割安な保険料です。



◆加入対象は社会福祉法人等が運営する認可保育所、認定こども園

## セットプラン

保険金額	基本セットプラン	天災セットプラン
賠償事故に対応	身体賠償（1名・1事故）	1億円・7億円
	財物賠償（1事故）	1,000万円
	受託・管理財物賠償（期間中） うち現金支払限度額（期間中）	200万円 20万円
	人格権侵害（期間中）	1,000万円
	事故対応特別費用（期間中）	500万円
	被害者対応費用	1名につき 5万円限度 1事故 10万円限度
園児の傷害事故に対応	死亡保険金	121.2万円
	後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の4%～100%
	入院保険金（1日あたり）	1,700円
	手術保険金	入院中の手術：入院保険金日額の10倍 外来の手術：入院保険金日額の5倍
	通院保険金（1日あたり）	1,100円
	天災補償	なし

基本セット補償保険料計算例	
100名で加入の場合	
賠償	29,300円
傷害	870円 ×100名 ×1口
	87,000円
合計	116,300円

セットプランを  
おすすめします!!



## 個別プラン

### プラン 1 保育所業務の補償

#### ① 基本補償

- オプション1 ●地域子育て支援拠点事業等補償
- オプション2 ●保育所の借用不動産賠償事故補償
- オプション3 ●看護職の賠償責任補償
- オプション4 ●クレーム対応サポート補償

#### ② 個人情報漏えい対応補償

#### ③ 保育所の什器・備品損害補償

### プラン 2 保育所利用者の補償

- ① 園児の傷害事故補償
- ② 来園者の傷害事故補償
- ③ 園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

### プラン 3 職員等の補償

- ① 職員の労災上乗せ補償
- 使用者賠償責任補償
- ② 役員・職員の傷害事故補償
- ③ 役員・職員の感染症罹患事故補償
- ④ 雇用慣行賠償補償

### プラン 4 法人役員等の補償

社会福祉法人役員等の賠償責任補償

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一緒に締結する団体契約（賠償責任保険、サイバー保険、学校契約団体傷害保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険）です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳細は「保育所・認定こども園の損害補償」手引またはホームページをご参照ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課  
TEL : 03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL : 03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

(SJ24-11619より抜粋)

# 懐かしのあの歌 色あせぬ思い出

県老人クラブ連合会が発行した「心をつなぐ愛唱歌集」

新潟県老人クラブ連合会（県老連）が発行した冊子「心をつなぐ愛唱歌集」が、人気を呼び続けています。

この歌集は令和3年10月、県老連の創立60周年を記念して作られました。

県内老人クラブ会員のアンケートをもとに、歌謡曲部門のトップ30曲、童謡・唱歌・民謡部門のトップ10曲をはじめ、新潟県内のご当地ソングも含む幅広いジャンルから計200曲の歌詞を掲載しています。

会員から寄せられたエピソードも多数掲載。夫や妻

と出会った時のこと、戦時の疎開体験、初任給を手にした時の喜びなどが、思い出の一曲と共に紹介され

## 県老連発行「心をつなぐ愛唱歌集」 発行5年目、今も愛され



ています。

また、現在「福祉にいがた」の表紙絵を担当している新井里沙さん（加茂市）をはじめとするアール・ブリュット作品が、見る人の目を楽しませています。

発行してから5年目。各種会合や地域の茶の間などで今も愛用され続けているといいます。

県老連では、一冊100円で歌集を特別あっせんしています。問い合わせは県老連事務局、025（2）81）5548へ。

2026 Vol.87

### 気になる言葉

スポーツの試合直後のインタビューなどで、こんなやり取りをよく耳にする。  
聞き手「次の試合へ意気込みをお聞かせください」  
選手「次もベストを尽くそうとは思っています」

この「とは」が気になる。

ただ、もしも政治家が「最優先で取り組む課題だとは思っています」などと言つたらどうだろう。「思つてはいるけど、取り組むのは難しい」と言いたそうに聞こえないか。それは勘弁してほしい。

一方、政治家のはつきりした言動が他国との間に摩擦を生むこともよくある。物の言い方は一筋縄ではないかない、とは思う。



## 「とは思う」の真意は

大谷翔平選手が多用している印象が強いが、それだけメディアに登場する機会が多いからだろう。アスリートに限らず、街角でコメントを求められた一般市民などにも「とは思う」が目立つ気がする。

「とは思う」と言わると、その後には「しかし」とか「ただ」などの接続詞と共に、前段とは逆のニュアンスを含む

言葉が続きそうでモヤモヤする。なぜ「と思う」ではなく「とは思う」なのか。

令和5年度の「ボランティアきっかけ講座」でジョセササイズに初めて挑戦する参加者たち（令和5年1月22日・阿賀町上川会館）＝阿賀町社会福祉協議会提供



## 阿賀町社協「ジョセササイズ」



重労働の除雪作業を楽しみに変えられないか。

そんな発想から誕生したのが、除雪とエクササイズ（運動）を組み合わせた「ジョセササイズ」です。ジョセササイズは福島県西会津町発祥の、「除雪は労働ではなくエクササイズである」という考え方です。阿賀町社会福祉協議会では、これを普及させる取り組みを足がかりに地域のつながりを強め、共に助け合いながら元気に暮らせるまちづくりを目指しています。

## 高校生の発案きっかけ

### 発想転換、地域づくりの一助に

大事。学生の思いと社協の

思いがこの時、一致したん

です」と町社協地域福祉係

の谷垣智子係長は振り返り

ます。そして出合ったのが、

県境をはさんだ隣町で生まれたジョセササイズでした。

阿賀町社協では、令和5

取り組みのきっかけは、地元・阿賀黎明高校の「地域学」の授業でした。地域の人や暮らしについて学ぶ生徒たちがたどり着いたのは「元気に暮らすには、地域とつながって好きなことをしながら楽しく生きること

とが大切」という結論でした。そして、冬場の重労働となっている除雪を筋力づくりに役立てたい、というアイデアが生まれました。「自分の得意なことや楽しみなことが誰かの困りごとの解決につながることが

3年目の令和7年2月に開いた講座では、ジョセササイズの取り組みを足掛かりにして、小さな地域で支え合う仕組み作りについて考えました。

ジョセササイズを軸にした町社協による一連の取り組みは、ここでいったん区切りをつけました。でも、地域活性化に向けてまかれた種は今、新しい芽を出そうとしています。



年1月に開いたボランティア講座で、日本ジョセササイズ協会（西会津町）の鈴木孝之会長を講師に招きました。阿賀黎明高生の学習成果発表に続き約30人の参加者がジョセササイズに初めて挑戦しました。

これが好評を博し、翌年もボランティア講座を開催。さらに楽しみを加えようと、ジョセササイズと除雪作業の後に温泉に入り、そばを食べながら交流しました。

# 支え合いへ組織化探る

## 深戸地区 楽しみながら人助け

「ジョセササイズの講座に参加して、うちの地域にも互いに助け合う『結』の話すのは、阿賀町深戸地区の阿部恵治さん（68）です。

深戸地区には、阿部さんいわく「中年ばかりの青年会」があります。消防団のメンバーを中心に15人ほど。毎月1回、

消防設備点検のために集まり、高齢者宅の除雪などボランティア活動もしています。阿部さんはその中心メンバーの人で、もう40年くら

い続けています。  
町社協主催のボランティアきっかけ講座には「青年会」の複数のメンバーが参加。ジョセササイズの考え方を知つたり地域の支え合

いについて考えたりしたの

「楽しいことやメリットがない人はなかなか集まらない。仲間づくりをしながら、除雪に特化せず、困っている人の役に立つことを考えていきたい」と阿部さんは期待を膨らませています。

## 先輩の思い継承 阿賀黎明高生

阿賀町社協がジョセササイズに取り組む原点となつた高校生の思いは、阿賀黎明高の後輩たちにも受け継がれています。

同校のボランティアグループ「コウノトリ」の代表を務める時枝天和さん（3年・神奈川県出身）は、令和7年2月のボランティアきっかけ講座に参加しました。「阿賀町に来て、初めて除雪作業をしました。

同じく講座に参加した松崎由太さん（3年・愛知県見据えています。



2年目の講座でジョセササイズに取り組む参加者たち。しっかりとやると、かなりハンドな運動になるという（令和6年2月3日・上川高齢者ふれあい会館）＝阿賀町社会福祉協議会提供



日本ジョセササイズ協会のホームページは、こちらから。動画もあります。

阿賀町社会福祉協議会は、こちらから。動画もあります。

■阿賀町社会福祉協議会 東蒲原郡阿賀町津川664番地

0254(92)3088

がきっかけで、組織化の機運が盛り上がりました。会では規約をつくり、団体としてこれからどう活動していくか検討を進めています。



3年目の講座で除雪作業を行う参加者たち。汗を流しながら地域の支え合いについて考えた（令和7年2月1日・さわやかホーム角神）＝阿賀町社会福祉協議会提供

多彩に♪にぎやかに♪

ナイスハートバザールにいがた  
2025 in ふるまち

ハートバザールにいがた2  
025-inふるまち」が、  
昨年11月16日、  
ナイス

新潟市中央区の古町ルフルで開催されました。



キッチンカーが初めて出店した販売ブース。多様な品ぞろえに来場者も大満足の様子だった



A photograph showing a woman in a pink dress playing a traditional instrument, possibly a shamisen or a biwa, on a stage. She is surrounded by several people seated in chairs, watching her performance. In the background, there is a building with a red and white striped structure and a yellow banner. Another person is standing to the right, holding a large orange rectangular panel.

施設の商品もお菓子から雑貨までさまざまなもの販売され、来場者も大満足の様子でした。

各施設からのワークショップでは、アクセサリー作りやはちみつの瓶詰め体験などが楽

来年度はさらに規模を拡大する予定です。年々パワーアップしていく「ナイスハートバザールにいがた」。ぜひご期待ください!

深めてもらおうと、オープニングセレモニーからキッ

イズ大会やDREAMY'S  
マジックショーなどさまざま  
なイベントが繰り広げら  
れました。

販売ブースでは今回初め  
てキッチンカーが出店。各

昨年11月16日、一ナイス

新潟市中央区の古町ルフルで開催されました。

イズ大会やDREAMY'S  
マジックショーなどさまざま  
なイベントが繰り広げら  
れました。

福祉の店  
パレット情報

パレット新潟店営業日						
2026年		1月			2月	
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

営業時間 11:30～16:30

編集後記

「仕事は楽しく」をモットーにして、私は、仕事が楽しくと思ふ。もちろん、どんな仕事にも厳しさやつらさはあるでしょう。でも、どうせやるなら「大変だ。つらい」と下を向いてばかりいるよりも、面白がって前向きに取り組む方が、幸せな時間を過ごせるのではないかと思うのです。

では、仁事が楽しいと思えるのはどんな時か? あくまで筆者個人の考えですが、「やらされる」より、自分から攻めに出る方がきっと樂用だと思います。たとえ受け身の仕事でも、そこに工夫や改善を加えるなどして自分の色を出せるなら、それもまた樂しいと思います。何より樂しいのは、自分

の仕事が誰かの役に立つて  
いると実感できる時です。  
そして、思いを共有できる  
仲間の輪が広がる時です。

町社協が3年越しでまい  
た種が、太く強い幹に育つ  
ことを願っています。(橋)  
す。  
ました。取り組みに参加し  
たのをきっかけに、互助に  
向けた組織づくりへ動き出  
した地域があります。雪か  
きを楽しいと感じ、「困って  
いる人の役に立ちたい」と目  
を輝かす高校生たちもいま

この機関誌は、  
赤い羽根共同募金の  
助成を受け発行しています。

発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会  
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ  
☎ 025-281-5584  
発行人／伊野 智彦  
定 価／5円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた  
令和8年1月1日発行（毎月1日発行）  
印刷／島津印刷株